

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：食生活学科

資格：准教授

氏名：上田 由美子

研究分野	研究内容のキーワード
学位	最終学歴
医学博士	和歌山県立医科大学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
		医師免許証
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Integration of genetic factors into pathogenesis of Alzheimer's disease. In "Research and Practice in Alzheimer's Disease", Vellas B, Fitten J and Frisoni G[Eds]	共	1998年	Serdi Publisher, Paris, France	アルツハイマー病の臨床症状および検査所見、画像診断法と分子遺伝学的な解析の研究成果を概説した。
2. A Variety of presenilin 1 mutations in Japanese familial early-onset Alzheimer's disease. In "Alzheimer's disease, Neurobiology, Diagnosis and Therapeutics", Iqbal K, Winblad B, Nishimura T, Takeda M and Wisniewski HM [Eds]	共	1997年	John Wiley & Sons Ltd, New York	アルツハイマー病患者のプレセニン1遺伝子変異のスクリーニング解析結果について概説した。
3. Association study of apolipoprotein and sporadic Alzheimer disease in the Japanese population.	共	1996年	Hong Kong Journal of Gerontology	日本人アルツハイマー病とアポリポ蛋白E-e4との間に関連が認められることを報告した。
2 学位論文				
1. T/G polymorphism at intron 9 of presenilin 1 gene is associated with, but not responsible for sporadic late-onset Alzheimer's disease in Japanese population.	共	1997年	Neurosci Lett.	プレセニン1遺伝子、CFOS、D14S43の多型を解析し、プレセニン1遺伝子の多型に関して、晩期発症型アルツハイマー病との間に弱い関連が認められること、さらに、アポリポ蛋白E-e4（晩期発症型アルツハイマー病の危険因子を考えられている）を有さない群において、有意な関連が認められることがわかった
3 学術論文				
1. 若年女性におけるサーチュイン(SIRT1)遺伝子多型と生活習慣病関連指標と血清PAI-1濃度との関連	共	2014年	日本臨床栄養学会雑誌	若年女性において、SIRT1遺伝子多型rs7895833 (A/G)が、血清PAI-1濃度や、体脂肪率と血清PAI-1濃度との関係に関連することを初めて見出した。
2. 若年女性におけるインスリン抵抗性の病態とApop遺伝子多型の関係	共	2013年	日本臨床栄養学会雑誌	若年女性において、Apop遺伝子多型が血中プレヘパリンLPL濃度に関連すること、食物繊維とインスリン抵抗性指標との関係にApop遺伝子多型が影響を与える可能性があることが推察された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. Low density lipoprotein receptor-related protein gene polymorphisms and risk for late-onset Alzheimer's disease in a Japanese population	共	2000年	Clin Genet.	Low density lipoprotein (LDL) receptor-related protein (LRP) 遺伝子と日本人晩期発症型アルツハイマー病との間に弱い関連が認められることを報告した
4. alpha 1-Antichymotrypsin as a risk modifier for late-onset Alzheimer's disease in Japanese apolipoprotein E epsilon 4 allele carriers.	共	1997年	Ann Neurol.	アポリポ蛋白E-e4を有する群において、α1アンチキモトリプシン遺伝子の多型が疾患病態を修飾している可能性を見出した。
5. Elevated amyloid beta protein (1-40) level induces CREB phosphorylation at serine-133 via p44/42 MAP kinase (Erk1/2)-dependent pathway in rat pheochromocytoma PC12 cells.	共	1997年	Biochem Biophys Res Commun.	
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
1. 遺伝性アルツハイマー病最近の進歩 a. プレセニン遺伝子	共	1997年	Geriatric Medicine	アルツハイマー病と関連が報告されている、プレセニン1遺伝子について解説した。
2. 痴呆—アルツハイマー型痴呆を中心に—遺伝素因	共	1996年	現代医療	アルツハイマー病と関連が報告されている、アミロイド前駆体蛋白遺伝子、プレセニン1遺伝子、アポリポ蛋白E-e4について解説した。
3. 孤発性アルツハイマー病の分子遺伝学的解析	共	1993年	日本老年医学会雑誌	アルツハイマー病と関連が報告されている、アミロイド前駆体蛋白遺伝子変異について解説した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 痴呆発症機構の解明アルツハイマー病と脳血管性痴呆の分子遺伝学的解析	単		ユニバーサル財団	アルツハイマー病の遺伝因子の解析を行った。
学会及び社会における活動等				
年月日				事項